

## 新聞記事切り抜き(流体研記事)

平成28年8月23日(火)

8月23日(火曜日) 2016年(平成28年)

新聞工業刊行月

IEEEナノテクノロジーは、米電気電子学会(IEEE)が主催し、毎年、世界各国で開かれるナノテク分野最大の国際会議。2001年に米クリントン前政権下で打ち出された国家戦略「国家ナノテクノロジー・インシアチブ」に基づいて設立され、今年で開催16回目を迎える。

16年の会議は、日本

のナノテク研究拠点の一つである東北大学の研究者が中心となって、毎年開催される。日本では、日本大流体科学研究所の寒川誠二教授は、日本でのナノテク研究を常に遅れている。今後、「オールジャパン」でナノテク研究を

招致した。東北大との共催となり、応用物理学学会や機械学会、科学技術振興機構(JST)などが支援する。組織委員長を務める東北大流体科学研究所の寒川誠二教授は、

# 日本勢、少々

MEMSなど議論

野最大の国際会議。2001年に米クリントン前政権下で打ち出された国家戦略「国家ナノテクノロジー・インシアチブ」に基づいて設立され、今年で開催16回目を迎える。

16年の会議は、日本研究者が中心となって、一つである東北大学の研究者を中心となって、日本ナノテク研究拠点の一つである東北大学の後、「オールジャパン」でナノテク研究を

共催となり、応用物理学会や機械学会、科学技術振興機構（JST）などが支援する。組織委員長を務めるのは、東北大学流体科学研究所の寒川誠二教授は、者である東北大の大野英男教授らが登壇す

る。常に遅れている。今、『日本のナノテクは非』、「日本のナノテクは非」などと、日本ではナノテク研究を言葉は以前ほど聞かれ

招致した。東北大との電気機械システム（MEMS）などのセッションもある。基調講演（CNT）やグラフエ

ンなど一部の材料研究全体の半数は日本以外を指すことが多い。しのアジアが占めてい

る。寒川教授は、「日本も産学官が連携してナノテクのプラットフォームを作らなければ、世界の流れについていけない」と危機感

日本で11年ぶりに開かれるナノテクノロジーの国際会議「IEEEナノテクノロジー」が22日、仙台市で開幕した。同会議には、材料からデバイス、製造、コンピューティングまで、世界30カ国から多様な分野の研究者が集う。これを機に、日本のナノテクを結集し、再び盛り上げようとの機運が高まっている。

が、IBMが構想する「脳型情報処理システム」をチノテクの観点から議論する特別セッションだ。また、東北大が強みを持つ微小で。会議の目玉の一いつと話す。会期は25日まで。

国	件数
日本	98
中国	56
欧州	29
米国	28
アジア (日本、中国、 台湾以外)	62
台湾	46
その他	1
総計	328 件

機に  
議論  
も日本でナノテクは、  
カーボンナノチューブ  
(CNT) やグラフェ  
ンなど一部の材料研究  
を指すことが多い。し  
かしナノテクは本来、  
「分野横断的な融合技  
術」(寒川教授)だ。  
原子や分子の配列を  
チノレベルで制御し、  
新規の材料だけでな  
く、デバイスやシステ  
ムなどを用いて、世界  
の構造を変える技術だ  
。この技術が、世界の  
構造を大きく変える  
可能性があるからだ。  
しかし、この技術は、  
まだ開拓途上にある。  
そのため、多くの課題  
が残っている。たとえば、  
ナノテクのプラットフ  
ォームを作らなければ  
、世界の流れについて  
いけない」と危機感  
を募らせる。